

子どもワークショップ及び若者調査 結果報告

1 子どもワークショップ「西東京市子ども会議」

(1) 小学生グループの発表(宣言)まとめ

- ・ 「ほっとできる場所」は、静かで落ち着ける環境や、清潔で安心できる場所、友だちなど知っている人がいる場所等が挙げられました。具体的には、家や学童、学校、児童センター、図書館、公園などが挙げられ、これらの場所は知っている人がいて、安心感があり、楽しいイベントがあることが共通しています。また、自然環境や涼しさ、香りといった感覚的要素も重要視されています。
- ・ 「ほっとできない場所」は、騒音や臭い、汚れた環境が主な要因として共通しています。具体的には、うるさい場所や緊張感がある場所、暗くて怖い場所、雑草が生えた場所、人が多くて騒がしい場所などが挙げられました。これらの場所では、音が耳に響いて不快になる、知らない人が多くて不安を感じる、治安が悪いと感じる、視線を感じて落ち着けないなどの理由が強調されています。子どもたちは、安心感や安全性が欠けている場所や、騒がしい環境を避ける傾向があることが分かります。
- ・ 「宣言(発表)」として挙げた意見には、子どもたちが安心して楽しく遊べる場所を求める声が多く見られました。具体的には、無料または安価で利用できるスポーツセンターや映画館、子ども専用の遊び場、サッカーなどのボール遊びもできる広い公園や温水プール、eスポーツ大会が開催できる場所などが挙げられました。子どもたちは、自由に遊べる場所や、安全で気軽に行ける場所を求める傾向が強く、特に遊び場の不足が問題視されています。また、実現方法として、募金活動や広い場所の確保、材料の収集など具体的な提案も出されており、遊びや運動の場を充実させるための積極的な姿勢がうかがえます。さらに、施設の安全性や快適性の向上についても意識されており、段差の解消や虫対策、休憩場所の設置といった具体的な改善策が求められています。

(2) 中学生・高校生グループの発表(宣言)まとめ

- ・ 「ほっとできる場所」は、落ち着ける環境で自分らしく過ごせる場所が好まれる傾向が見られます。具体的には、家の縁側や図書館の自習室、児童センター、ルピナスの大広場、カードショップ、西原自然公園などが挙げられました。これらの場所には、知っている人がいる、自分に馴染みがある、自分の好きなことができる、広々として落ち着くといった共通点があり、心地よく安心できる場所であることが特徴です。
- ・ 「ほっとできない場所」は、狭くて暗い場所や、ゆっくりできない環境が挙げられています。具体的には、高校に行くときに通る十字路、公園の机と椅子、人が多くてがやがやしている都心、学校や電車、公園、教室などが挙げられました。これらの場所の共通点として、交通量が多くて危険を感じる場所や、しっかり整備されていない場所、草が多い場所があり、落ち着いて過ごせないことが問題視されています。また、年齢層が広い場所や、目的を持って行動する場所では、自由に過ごせないことが不安要素となっています。中高生たちからは古民家カフェ

を作りたい、子どもが自らの発想で主体的につくる西東京ドリームプレイスを作りたいなど、今後実現できそうなアイデアが出された。自分たちも夢の実現に貢献したい、まちづくりに関わりたいという意見がいくつものグループから出てきた。

(3) 計画専門部会での意見

- ・ 子どもたちがしっかり自分の意見を表明できたことが素晴らしかった。
- ・ 子どもたちの意見についてもっと丁寧に聞いていきたいと思った。すべての子どもにとって同じことを思っているわけではないので、1人1人向き合っていきたい。この場で子どもたちがしっかり意見表明できることに意義を感じた。「大人たちと一緒に実現したい」という内容もあり、自分たちも真摯に向きあいたいと思った。
- ・ 違う世代の交流ができたことも良かったと思う。子どもたちの「やりたい」という気持ちにどう応えるのか、またやりたいという気持ちだけでは実現できない内容もあると思うので、そこに対しての答えも考えないといけない。大学生が進行するのもすごくいいと思った。
- ・ 古民家カフェに興味を持った。今西東京市で実施していない緊急ショートステイを古民家カフェと連携を取り実施できないかと考えていた。大学で実施したことも子どもたちにとって刺激になったと思う。
- ・ 「来年も参加したい」という多くの子どもたちの声を受けて、今後の子どもの参加施策についても検討を行いたい。

2 若者調査

(1) 調査結果の傾向

- ・ 終業後や放課後に過ごす場所として希望されるのは、「大きな公園や広場」が最も多く、次いで「体育館や運動場などのスポーツができる場所」、「趣味（音楽やダンスなど）を仲間と楽しめる場所」でした。終業後や休日を過ごすために、西東京市にあってほしい施設・場所としては、「商業施設やカフェ、ファミリーレストラン、カラオケなど」が56.1%と最も多く、次いで「一人でゆっくりと、静かに過ごせる施設」（47.5%）、「友人や仲間と気軽におしゃべりができる場所」（41.6%）、「無料で安全にWi-Fiが繋がる場所」（37.0%）、「勉強・自習ができる場所」（35.0%）でした。
- ・ 参加しているまちづくり活動については、「どれにも参加していない」が最も多い結果となりました。参加していない理由として、「学業や仕事で忙しいという理由の後に、活動事例や団体などの情報がわからないから」、「参加する方法がわからないから」という理由が挙げられ、市からの情報提供が求められていることがわかります。まちづくり活動に参加している理由としては、「社会に貢献できるから」、「自分の成長やキャリアアップにつながるから」が最も多く、次いで「人とのつながりを増やせるから」、「自分の知識やスキルを生かせるから」が挙げられました。まちづくり活動参加者を増やすために必要だと思うこととしては、「交通費や会場使用料などの経費の支援」が最も多く、次いで「事前申込なしで短時間でも体験できる機会」、「個人で参加できる機会」が挙げられました。

- ・ 若者は、お金や仕事、進学・就職に関する悩みに加えて「漠然とした不安」を抱えていることが多いことが分かりました。相談時には、匿名性やいつでも相談できることを特に求めており、「匿名で相談できる」が最も多く、次いで「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」、「同世代であること」などが挙げられました。無職のグループでは「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が最も多かったです。
- ・ 若者の8割が、市の制度や取組について意見を伝えられていないと感じています。その理由としては、「意見を伝える方法がわからないから」「市に意見を伝えても反映されないと思うから」「市の制度や取組について知らないから」といった声が多く挙げられました。意見表明がしやすい方法については、「アンケートに答える」が最も多く、次いで「LINE や SNS などのオンラインで伝える」、「意見を伝えることでクーポンや謝礼などをもらえる」、「伝えた意見がどのように扱われるかわかる」、「若者が意見を伝えることが意義のあることだと実感できる」が挙げられました。
- ・ 若者のために市に必要なと思う取組としては、「お金のことを心配することなく学べる機会の充実（学び直し含む）」が最も多く、次いで「自由に過ごせる場所を増やす」、「技術や資格取得の支援」が多く挙げられました。自由記述では、「チラシや掲示物だけでなく、WEB 上の情報発信も充実させてほしい」という意見が寄せられました。

(2) 計画専門部会での意見

- ・ 自由記述で取り組みが周知されていないことや、寄り添う体制が感じられないなどの意見が出てきていて、声掛けを実施する窓口なども設けた方がいいと思った。
- ・ 「育成支援機関」について、各事業の対象者や開設年の説明があると、回答している人の傾向がわかると思う。また、「幼少期から住んでいる(西東京市で育った)」人が当時あった育成支援機関をどの程度利用しているのか知りたい。
- ・ 自分は結婚を機に西東京市に引っ越してきたので、サービスを知る手段がなかった。なので、皆さんはどこからサービスを知ったのかが気になった。
- ・ 最近お祭りをやっていることが多いが、そもそも知られていないことが多いと結果を見て感じた。若者がお祭りなどを計画する側に参加してもらえれば、もっと知ってもらえるのではないか。